

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 共友会	代表者	岩尾 貢	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で暮らし続けることを大切に「ケアの流れを変える支援」「人生の最後まで寄り添う支援」「共生型サービスの実施」を行っている。 生きがいの持てる活動づくりとして「就労等の日中活動支援」「若年性認知症の方への支援」「高齢障害者支援」を実施している。 相談支援の拠点づくりとして「地域の方が気軽に立ち寄れる場」「誰もが相談できる場」を作っている。
事業所名	小規模多機能ホーム やたの	管理者	佐野 正人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	6	1	6	1	0	2	0	18

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①利用者一人ひとりの「～したい」ことを計画作成担当者や利用者個々の担当スタッフが中心となり定期的に確認し、プランに入れていく。意思表示が困難な方については、ミーティングやカンファレンスを活用し、本人の視点で考えていく。プランの内容を実践していく。</p> <p>②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族を交えてのカンファレンスの開催 家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。 	<p>①利用者個々の「したいこと」や「好きなこと」を会話の中から見つけ、スタッフ間で共有できている。利用者本人に「何かしたいこと」を尋ね、活動内容を考えることやケアプランの当面の目標とし、実現可能なことから取り組むことができている。</p> <p>②家族を交えてのカンファレンスの開催は利用者によって差が見られるが、本人や家族から要望があればスタッフ間で話し合いを持ち、実現していく体制を整えている。また、本人や家族からの意見についてもスタッフ間で共有し、早急に対応している。家族同士が交流できる企画までの取り組みは行っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中、スタッフの皆さんが頑張っていることが良く分かる。ミーティングでの話し合いもよくされていることが分かる。 地域で行われている防災訓練や会議に実際に参加されており、ミニ地域ケア会議にもスタッフが交代で参加されており、地域の課題を教えるもらう良い機会となっている。協力できていると思う。 介護サービス相談員の受け入れを行っている。 改善計画は同じような内容になっており、評価し難い部分がある。 地域の行事やサロンに積極的に参加されており、地域の方と顔なじみになっている様子が見られ、良いことだと思う。 家族の希望に柔軟に対応してくれることや相談に応じてくれることがあり、安心している。 家でできないことを事業所を利用することで行えており、非常に満足している。本人も利用することが楽しみになっている。 	<p>①事業所として1年を通して改善計画や自己評価の内容を意識できるように、3カ月に1回、ミーティングなどで振り返る機会を作る。</p> <p>②事業所自己評価の改善計画の内容が評価しやすいような記載とする。</p>

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<p>①地域の方が事業所を訪問できるように、地域の方が寄れるような単発的な企画や法話を考え、やたの新聞やチラシ等で地域の方にお知らせする。 事業所を訪問されている方や地域のサロンに参加されている方等に、どのような企画や行事があれば参加しようと思うのかを確認する。</p> <p>②事業所外周の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。 ・利用者が活躍できる場として、装飾品を作ることや花を飾ること等の取り組みを通じて、町内の文化祭に展示できることを目標とする。地域の方で作品などを教えてもらえる人や場所を探す。 <p>③不審者対策としてマニュアルを見直し、対策方法の共有や訓練を行う。</p>	<p>①地域の方が訪問しやすい取り組みや地域の方の意見を聞くことや相談することまでは取り組めなかった。</p> <p>②事業所外周や玄関周りの整理整頓は行えているが、季節を感じられる環境づくりまでには至っていない。利用者と一緒に花を植える活動は行えたが、継続的に取り組んでいる状況までには至っていない。</p> <p>③不審者対策については令和7年度、取り組むことが出来なかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもきれいにしていると感じる。 ・外周もきれいで、施設と感ぜないような外観の工夫がされている。 ・事業所の立ち寄りやすさについては、まだ敷居が高いと感じている。 ・一度大きな道に出てから来なければならぬので、お年寄りの方など歩いて来る人にとっては、来にくいのでは感じた。特に雪の日は歩道が歩けない状態となっているため余計に来にくくなっている。裏から入る場所があれば入りやすいのではないか。 ・ミュージックケア等、事業所で行っていることを地域の方が参加できるようにお知らせしたらいいのではないか。 	<p>①事業所だけで行っていた企画や行事などに地域の方が誰でも参加できるように、やたの新聞やチラシなどで案内する。</p> <p>②利用者と一緒に外周に掃除や整理整頓、花植えや管理を継続的に行う。</p> <p>③不審者対策としてマニュアルを整備し、対策方法が共有できるように訓練の実施やスタッフ間で話し合う機会を作る。</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①事業所通信（やたの新聞）の内容を定期的に見直し、興味を持ってもらえる企画・活動の案内、気軽にコーヒーでも飲みに来ることにつながるような案内をミーティング等で話し合い、内容に入れていく。</p> <p>②矢田野地区の6町の民生委員の集まりに継続してやたの新聞等を配布し、集まりに参加し、事業所のことや取り</p>	<p>①事業所の通信（やたの新聞）の内容を見直すまでの取り組みが行えなかった。</p> <p>②矢田野地区の6町の民生委員の集まりに、矢田野町の民生委員の協力を得て、やたの新聞を配ることができた。</p> <p>③おわたサロンにスタッフが継続して参加することで、そこを利用されている方から心配なことの相談を受けることやその後の経過を確認することができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの挨拶がとても良く、事業所に入りやすかった。 ・やたの新聞を回覧版で回覧しており、その写真を見てどのようなことをしているのか良く分かりますが、どのようなことを相談できるのかまでが分からないことも考えられる。事業所で行っていることや行えることなどの内容が新聞等に掲載していると相談しやすくなるのでは。 ・町内のお祭りやイベントにも参加されている。 	<p>①やたの新聞の内容を見直し、どのようなことが相談できるのか等、具体的な内容を入れていく。</p> <p>②事業所が相談しやすい場所となるために、継続して地域で開催されている各サロンに出向き、参加されている方との関係を作っていく。</p>

	<p>組みについて話ができる機会を持つ。</p> <p>③地域の方が困ったことなどを気軽に相談してもらえる関係性が出来るように、継続して地域で開催しているサロンに参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談を受けた場合は記録に残し、必要に応じて民生委員や地区の高齢者総合相談センターと連携していく。 ・地域で開催しているサロン等に継続して参加し、参加者の状態や変化を知る。 	<p>令和7年度からいどりサロンを開催し、校下の高齢者総合相談センターの協力を得ている。サロンを利用されている方については継続的にかかわりを持っている。実際にサロンを利用されていた方が要介護状態となり、家族から相談を受けて小規模多機能ホームの利用となったケースもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が集まるおわたサロンにスタッフが参加し、その場に一緒にいることで色々な話をされている様子がある。車の送り迎えの支援を行ってもらうことで参加できている方がおられ、現在5人～6人の方が送迎を希望され、利用されている。 	
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に利用者が継続して参加できるように支援する。 普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。</p> <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加することや個々の地域で活動できる時間を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。 ・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援につなげられることがないか本人や家族と一緒に考える時間を持つ。 	<p>①おわたサロンやいきいきサロンには継続して参加できている。おわたサロンには小規模多機能ホームの利用者が参加できるように支援し、4名が参加されている。</p> <p>②事業所がある地域への取り組みは行えているが、利用者個々の地域に出向くことや活動などを支援する取り組みは十分にできていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の色々な行事に利用者と一緒に参加されている。 ・利用者と一緒に買い物している場面に会うことがある。 ・サービスに繋がらなくても高齢者総合相談センターとして相談したことに、安否確認等の対応を行ってもらうことがあり、取り組んでいると感じる。 	<p>①地域の高齢者総合相談センターと連携を図り、いどりサロンを利用している方とのかかわりを継続しながら、新たに地域の中で心配な方とのかかわりが持てる環境を作る。</p> <p>②利用者個々の地域の情報を得て、その情報が共有できるように軒下マップを作成・追記していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の地域にある社会資源の活用していく。 ・本人の希望に応じてその地域での活動や参加を支援する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①運営推進会議の中で地域の中で課題となっていることや事業所として取り組みたいことや取り組んでいることの検証等を参加されている方と一緒に考えることができる場とする。</p> <p>②継続して運営推進会議に職員が交代で参加し、その中で取り組みや意見が伝えられる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した職員がミーティングで他の職員に会議の内容や感想が報告できる環境を整える。 	<p>①地域の中で課題となっていることを会議の中で教えてもらう機会は持てなかった。どのような工夫があれば意見が出しやすくなるのか検証することも不十分であった。事業所として取り組みを考えていることを会議の中で提案し、参加者から意見を聞くことや取り組み後の結果や経過を伝えることができた。</p> <p>②会議にスタッフが継続して参加し、参加したスタッフから取り組みの様子などを報告、説明する機会となった。参加したスタッフがミーティングで他のスタッフに会議の内容を報告することや議事録を回覧することで、共有することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気楽に意見交換が出来る場と感じています。 ・ちょっと堅苦しい部分があるように感じます。もう少しフランクに話ができるのもっと良いのではと思います。 ・雑談みたいなのがあっても良いのではと感じます。 ・スタッフは交代で参加しています。 ・会議に色んな方が参加されていて良いと思います。利用者さんや家族の方も参加されています。会議に参加して家族の方も利用者さんも皆さん喜んでいるという印象を受けます。 ・会議に参加することでどこに聞けばよいか分からないことも、市の職員さんも参加されていて聞くことが出来ました。話しやすい雰囲気はあります。 ・会議自体がアットホームな感じがします。 	<p>①地域や会議に参加されている方が気軽に意見を伝えることができる、相談できるような雰囲気を作る。地域の心配ごとや取り組みが気軽に出し合え、話し合える雰囲気を作る。</p> <p>②会議の中で出た意見や提案が次の会議以降も継続的に話し合える、話し合った取り組みを実践・検討し、その結果を伝えられる内容とする。</p> <p>③事業所自己評価や外部評価での改善計画の進行状況を継続的に報告し、意見交換できる環境を作る。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>①火災マニュアルだけでなく、全ての災害マニュアルと訓練を連動させていき、実践できるマニュアルに見直していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機の使用訓練の実施、 ・災害時の備蓄品の確保・管理方法を検討する。 <p>②災害時等に事業所としての備えや設備を地域の方にも知ってもらう機会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所で行う訓練に地域の方の参加協力を案内する。 ・町で実施されている訓練に参加させてもらう。 ・町の防災士などと話し合える場を設ける。 	<p>①全ての災害マニュアルを参考に訓練を実施するまでには至っていない。</p> <p>発電機の使用訓練を今年度1回、実施し、2回目の訓練も予定している。発電機の使用訓練を町内の方にお知らせするまでには至っていない。備蓄品に関しては備蓄品を保管する場所、定期的な確認、補充など課題となっていることが多い。</p> <p>②今年度1回目の火災訓練に矢田野町の防災士が3名参加し、意見交換やアドバイスを受けることにつながった。</p> <p>矢田野校下の防災訓練にも参加することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にこの事業所にどのような設備等があるのかが分からないため、頼りになるのかまでは分からない。 ・この事業所で何が出来るのかが分からないため、どのようなことを頼りにしていいのかが分からない。高齢者や障がいのある方等がこの場所に避難することが出来ることも知らないと思う。 	<p>①発電機の使用訓練や事業所で行っている各訓練を町内の方にもお知らせする。</p> <p>②必要な数量の備蓄品が保管できるように、保管方法・管理方法について検討する。</p> <p>③地震発生を想定した訓練の実施、新たに設けられた内水浸水時の訓練を実施する。地区の防災士や町民に参加の案内を行い、一緒に考えてもらえることや事業所を知ってもらう機会を作る。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・発電機などの設備、備蓄品などの管理等について地域の方の意見を得る。			
--	--	--	--	--

